

令和7年度 市長との対話集会（中名田地区）議事要旨

日 時：令和7年10月31日（金） 19時30分～21時00分

場 所：中名田コミュニティセンター

参加者：24名

テーマ：新幹線と共に歩む小浜市の将来像

1 参加者からの主な意見

(1) 自然・観光資源の活用とPR強化

- ・地区の豊かな自然（亀が淵、田んぼ、川など）を活かしたカレンダーや商品の開発、インスタグラムなどのSNSを活用した情報発信（写真スポットの紹介など）。
- ・地域の人の温かさや、米作り・野菜作りを体験できる農業体験の実施。
- ・地区内の観光資源をアピールし、バイク愛好家など自然を好む層への需要開拓を図る。
- ・小浜市全体のPR軸として「これ」という強み（例：中名田は「景色、米、人柄で里山推し」、小浜全体は「海のもの」など）を明確に打ち出すべき。

(2) 地域資源の有効活用と新たな交流拠点づくり

- ・若狭おばまの歴史的強みである「御食国」をブランディングの核として継続的にアピールすべき。
- ・「こめのわ」のリーフレットに「中名田のお米はおいしい」といったサブキャッチフレーズがあり、御食国と連携したPRを継続したい。
- ・新しい施設の建設は予算的に困難なため、歴史ある古民家を地区民が協力してリノベーションし、新たな交流拠点として活用。
- ・リノベーションした古民家で「蔵出しのお宝市」を開催し、関西圏からのインバウンド客を誘致。
- ・市公認キャラクター「さばトラななちゃん」を活かした「猫推し」の保護猫施設の運営や、グランピング施設の誘致または整備。

(3) 交流人口・定住人口の促進と地域活性化

- ・キャンプ場の整備により、地域産品のPRや交流人口の増加を図る。
- ・古民家を活用した「中名田プラン」として、都会からの来訪者が車や田畠付きで1週間程度滞在できるようなプランを提供し、地域の魅力を体感してもらう。
- ・人口減少で縮小傾向にある地域のイベントに対し、小浜市がバックアップする形で市全体のイベントを中名田地区で開催して地域を盛り上げたい。
- ・小浜市民が市内の他地区を知るための市内交流事業（例：何十人か単位で他地区を訪問し、地域住民が案内・紹介）を推進し、市内の魅力を知ってもらう。その際、市からの補助金制度（例：年間3地区以上回った地区に補助金）の検討を要望。

(4) 地域産品の有効活用とブランド化

- ・各家庭で廃棄されている地域内の余剰野菜を市が買い取り、安価で販売する仕組みを構築。販売時には「中名田の大根」のように産地を明記し、地域のPRにつなげる。
- ・小学生が作った米粉クッキーについて、今後も継続して、道の駅やふるさと納税の返礼品、SNSなどを活用したPRを強化。

(5) 新幹線開通を見据えたインフラ整備とまちづくり

- ・新駅からのアクセス向上として、国道 162 号および県道岡田深谷線の整備が重要。
- ・京都まで 19 分という利便性を活かし、京都・大阪への通勤・通学を促進。
- ・京都から 19 分という利便性を活かし、空き家をリフォームし定住ではなく「別荘」として住んでもらう。また、農業体験の場として活用し、交流人口を増やす。

2 市長からの主な回答

(1) 自然・観光資源の活用と PR 強化

- ・カレンダー企画は面白いアイデア。有名人とのコラボレーションや、地域の人を映し出す企画（例：ウォーリーをさがせのような仕掛け）なども検討の余地がある。
- ・農業体験においては、地域の「人柄」などコピーできない独自の要素を活かした差別化が重要。
- ・スポーツ合宿やバイク・自転車観光客の誘致に地域資源や受入体制等を PR することは効果的。
- ・「これぞ小浜の推し」を決めるコンテストを中学生が発案・主催することも可能。
- ・米粉クッキーの PR については、プロテイン「コメテイン」のような新しいニーズに対応した商品開発にもチャレンジする価値がある。

(2) 地域資源の有効活用と新たな交流拠点づくり

- ・空き家活用については、大学の建築学科や専門家、デザイナーなどが実際のフィールドとして活用し、昔の建築工法を学びながら新しい感覚でリノベーションし、地域住民と共同で運営していくモデルを作っていくべき。
- ・「御食国」というシンボルに加え、地域の特産品をパズルのピースとして捉え、それぞれのピースを持続的に守り育てるまちづくりが必要である。
- ・キャンプ場整備は、思いを行動に移すことが重要であり、実際にイベントを開催している中名田地区なら実現の可能性はある。川や山など、地域が持つ多様な自然を活かしたキャンプ場は魅力的な交流拠点となり得る。（リノベーションした古民家をキャンプの拠点として活用することも有効）
- ・滞在型プラン（1 週間など）は、特定の層には強く響くため、地域のホスピタリティを活かし、お祭の時期や農業体験と組み合わせたプランとしてぜひ実施してほしい。
- ・中名田初のイベント（例：川に足をつけて音楽を楽しむフェスなど）の実現に向け、市の提案型事業を活用し挑戦してほしい。

(3) 交流人口・定住人口の促進と地域活性化

- ・市民の市内交流促進については、小学校の交換留学や自然体験学習を通じて、市内の全地区を回る機会を教育の場面で創出できないか、教育委員会と検討をおこなう。

(4) 地域產品の有効活用とブランド化

- ・余剰野菜の活用は、学校給食での地場産活用や、小さな農家からの買い上げ・全地区への分配という視点で、改めて検討をおこなう。

(5) 新幹線開通を見据えたインフラ整備とまちづくり

- ・新幹線開通後の人口動向について、ストロー現象ではなく、教育環境や子育て環境、趣味を楽しめる自然環境の良さを重視する層が関西圏から流入する可能性が高いと見ていく。人口が増加した長野県佐久市の事例を参考に、教育への投資も重要と考えている。